

# 平成 25 年度事業 外部評価結果報告書

東京都写真美術館外部評価委員会

平成 26 年 6 月 20 日



## 目 次

1	座長あいさつ	1
2	総 評	2
3	評点一覧	4
4	評価結果一覧	5



## 座長あいさつ

この度、東京都写真美術館外部評価委員会として平成25年度の東京都写真美術館の運営に対する評価結果を、福原義春館長に提出いたしました。

東京都写真美術館は、「存在感のある美術館」を中・長期的なミッションとしており、そのミッションの具体的な事業運営項目に沿って、評価を行いました。

平成25年度の評価では、①作品収集、作品管理、調査研究において、館で立てた明確な収集基本方針や収集指針に基づき、収集や作品管理が適切、的確に行われていること ②展覧会では、調査研究に根差した収蔵品展、他に先駆けて海外の重要な作家や国内の旬の作家、新進作家を紹介する自主企画展、興味を惹く誘致展など、多様な展覧会をバランスよく提供し、来館者の満足度を前年にも増して高めていること ③広報に力を入れ、写真ファンでない人も新たに取り込むなど新しい来館者を開拓していることなどに着目しました。

また、当館を支援していただく企業・団体等の支援会員について、過去最高の支援会員数と金額を獲得するとともに、支援会員に対するケアも適切であり、他館の見本となるような活動ぶりに高い評価をいたしました。

一方、各種事業に応じて、業務に見合う人材面の確保、地域等との繋がりを強める連携の推進において、一層取組みを強化していただきたい課題も残されています。さらに、今後予定されている大規模改修工事にあたっては、建物のハード面での使いにくさが少しでも改善され、これを機会に、誰もが入ってみたくなるような親しみやすい写真美術館になるよう期待しているところであります。

当委員会では、この評価が東京都写真美術館の今後の事業運営の改善、発展の一助となることを目的としていることから、各委員から寄せられた提言、課題等に着実、迅速に取り組まれるよう期待するものです。

平成26年6月20日

東京都写真美術館外部評価委員会  
座長 樺山 紘一

## 【総評】

平成25年度の美術館運営について、まず、「優れた写真・映像作品の計画的・効果的な収集」であるが、写真美術館では基本方針及び収集指針が明確に立てられており、これら方針・指針に基づく収集が適切に行われている。特に、展覧会と収集が連動しており、米田知子の展覧会開催と平成25年度（第64回）芸術選奨文部科学大臣新人賞の受賞との連動は、その良い例といえる。

次に「的確な作品管理」であるが、写真作品の保存科学の研究を重ね成果を上げ、写真の保存については、他機関からも信頼の寄せられる国内随一の機関となっている。材質を含めた適切な保存箱の選定や作製、収蔵処理を行っていることは高く評価できる。

「調査・研究」面においては、各展覧会の図録に各担当が論文を執筆しているばかりではなく、紀要にはインターンを含めた6名が執筆をしている。さらに外部の文献に積極的に寄稿、学会発表や講演会・シンポジウム等にも参加し、国際的にも活躍していることは、幅広い調査・研究を行っている証である。東京都写真美術館が写真文化の発展に大きく寄与していることは十分評価に値する。

「展覧会」では、写真専門の美術館である以上、質の高い展覧会を開催することは当然であるとはいえ、豊富な収蔵品を活かし、調査研究に根差した独自の切り口の収蔵品展、他に先駆けて、海外の重要な作家や国内の旬の作家、新進作家を紹介する自主企画展、一般の興味を惹く企画も数多い誘致展など、様々な来館者に応える構成になっている。また、来館者数については、天候不順による恵比寿映像祭の減少はあったものの、展覧会自体は好調で、経営目標の数値を上回る結果となり、目標達成といえてよい。

「映画の誘致と上映」については、企画と運営に工夫がなされ、商業館とは異なる多様なラインナップで、写真美術館ならではの興味深い映像作品を上映している。

「普及教育活動」では、展覧会に関連した講演会のほか対象者に応じた多様なスクールプログラムが着実に実施されており、ボランティアを育成するなど教育普及活動に力を入れて、新たな観客層を掘り起こそうと努力していることは大いに評価できる。

「図書資料」については、写真専門の美術館の図書室として、写真の展示だけでなく、写真集の収蔵も大切な役割を果たすが、4万冊近くの図書を収蔵しているのは心強い。洋書の購入も含め収蔵冊数をさらに増やす努力が必要であり、一般のみならず研究者にも対応できるレベルの高い図書室を目指してほしい。

「広報宣伝」においては、読み物として季刊広報誌「写真美術館ニュース eyes」で写真ファンを獲得する一方、美術館の活動をマンガでしめす描く別冊「nya-eyes」とその単行本は、東京都写真美術館の存在を広く知らしめる働きがあるだろう。

また、「インターネット等を用いた情報発信」について、ホームページの閲覧数が、昨年度に比べ約 120%超となったのは素晴らしいことであるが、今後、キュレーターの生の声を聞かせるような工夫をした動画や「YouTube」の活用なども検討に値する。

「来館者サービス」面では、来館者に対してサービスを提供するという意識が徹底しており、展覧会やイベントのみならず、図書室、カフェ、ショップにいたるまで一貫しているのは好ましい。

「企業・団体等の参加促進」については、写真美術館が独自に進める支援会員制度を定着させ、支援会員数、会費総額ともにこれまでの最高記録を更新し、成果を上げていることを高く評価する。

また、「地域との連携強化」については、「「あ・ら・かるちゃー 渋谷・恵比寿・原宿」を充実させ、英語版で各施設を紹介するパンフを新規作成したことは、実績として評価する。

「インフラ」面では、改修にあたり、実際にその場所を使う人の意見を採用する場を設けたことは、大変良いことと評価でき、リニューアルを機会に、誰もが入ってみたくなるような親しみやすい写真美術館になることを望むとともに、来館者への安全確保や収蔵資料の保護の観点からも、東京都に対して十分な対応をお願いするものである。

## 平成25年度事業 評点表

評価項目		評点
<b>1 作品収集・保存事業の評価</b> <過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館>		<b>5</b>
(1)	優れた写真・映像作品の計画的・効果的な収集	4
(2)	的確な作品管理	5
(3)	写真・映像に関する幅広い調査・研究	5
<b>2 事業展開の評価</b> <質の高い写真・映像文化と出会う美術館>		<b>5</b>
(1)	来館者数の目標達成と集客増	5
(2)	質的な満足を得られる展覧会の提供	4
(3)	良質な映画の誘致と上映	4
<b>3 教育・普及事業の評価</b> <写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館>		<b>4</b>
(1)	対象者に応じた多様なプログラムの提供	5
(2)	図書・情報の収集と公開の促進	4
<b>4 広報事業・情報発信の評価</b> <写真・映像文化の拠点として貢献する美術館>		<b>4</b>
(1)	効果的な広報・宣伝	4
(2)	インターネット等を用いた情報発信の推進	4
<b>5 来館者の視点、企業・団体の参加、ボランティア事業、地域連携の評価</b> <開かれた美術館>		<b>4</b>
(1)	良質なサービスの企画、提供	4
(2)	企業・団体の参加促進	5
(3)	ボランティアの参画推進	4
(4)	地域との連携強化	4
<b>6 インフラの改善</b> <ミッション達成のための必要な基盤の整備>		<b>4</b>

※評点区分: 【高】5 【やや高】4 【中】3 【やや低】2 【低】1



## 平成25年度事業評価結果一覧

### 1 作品収集・保存事業の評価 【評点5】 <過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館>

#### (1) 優れた写真・映像作品の計画的・効果的な収集 【評点4】

##### 《評価の理由》

- ベテラン、注目株、若手の作品をバランスよく収集している。展覧会を機に出品作などを収集する手法は、「見せる」と「収蔵する」の間に一貫性が生まれるので悪くない。
- 自主企画展「米田知子」展や「須田一政」展のための当該作家作品など、戦略的に収集が進められている。作品調査等の成果にもとづき、寄贈作品が増加しており、点数においては目標・目安を大幅に上回った。
- 展覧会と連動し質の高い作品を収集している。「米田知子 暗なきところで逢えれば」展を開催したのを機会に米田知子作品を20点収集。米田知子氏は平成25年度（第64回）芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞したのはその良い例であろう。

##### 《指摘された課題・提言等》

- 日本の作家に重点を置くことは理解できるが、少数でも外国作家を重点作家に加えることはできないのであろうか。
- プリントスタディールームは、昨年度は1件の利用、今年度は5件39閲覧されているが制度だけで認知されていないのか。重要な作品であり難しい点もあるが、もっと利用されてもよいのではないか。

#### (2) 的確な作品管理 【評点5】

##### 《評価の理由》

- 写真作品の保存科学の研究を重ね成果を上げ、その結果、写真の保存については、他機関からも信頼の寄せられる国内随一の機関となっている。新規収蔵作品に対しては、材質を含めた適切な保存箱の選定や作製、収蔵処理を行っている。

##### 《指摘された課題・提言等》

- 依然として困難な問題である旧来の写真フィルムの保存・管理について、日本写真保存センター等の他機関との協働によって、多様な調査・研究が進められている。写真美術館だけでなく、多くの関連美術館・博物館が直面する難問であるだけに、早急な結論が期待される。

(3) 写真・映像に関する幅広い調査・研究 【評点5】

《評価の理由》

●各展覧会の図録に各担当が論文を執筆しているばかりではなく、紀要にはインターンを含めた6名が執筆をしている。さらに外部の文献に積極的に寄稿、学会発表や講演会・シンポジウム等にも参加し、国際的にも活躍していることは、幅広い調査・研究を行っている証である。東京都写真美術館が写真文化の発展に大きく寄与していることは明白であろう。

《指摘された課題・提言等》

●主要な業務が、展覧会の業務がきわめて多量、かつ複雑であるところから、写真史と現在について、射程の長い根本的な調査・研究にまで及ぶことは難しかった。平成26～27年の展覧会休止の間にあらためて長期的な調査・研究の方策について検討と実施が望まれる。

## 2 事業展開の評価 【評点5】

### ＜質の高い写真・映像文化と出会う美術館＞

#### (1) 来館者数の目標達成と集客増 【評点5】

##### 《評価の理由》

- 目標人数を上回るか来館者数を達成できて、年代別に見てもバランスが良いのは好ましい。将来を見越して、若年層の取り込みを意識したい。

##### 《指摘された課題・提言等》

- 展覧会のうち、「日本写真開拓史」展など日本の写真史の草創期から初期についての展覧会は、平均入場者数が相対的に少ない。観客の関心度における自然の勢いともいえるが、写真美術館としては重要な活動分野でもあるだけに、広報をはじめとする観客誘致活動に注力していただきたい

#### (2) 質的な満足を得られる展覧会の提供 【評点4】

##### 《評価の理由》

- 豊富な収蔵品を活かし、調査研究に根差した独自の切り口の収蔵品展、他に先駆けて、海外の重要な作家や国内の旬の作家、新進作家を紹介する自主企画展、一般の興味を惹く企画も数多い誘致展など、様々な来館者に応える構成になっていると思う。とりわけ、米田知子氏が平成 25 年度（第 64 回）芸術選奨文部科学大臣賞新人賞を、須田一政氏が平成 26 年日本写真協会賞作家賞を受賞したことで、その質の高さは十分伺える。
- それぞれの展覧会が明確なメッセージをもっており、ごく普通の観客としても満足すべきものがあつたと思われる。なかでも、欧米作家を主題とした複数の作家の展覧会が刺激的であり、「ブルーメンフェルド」展では、商業写真も含むファッション写真の形成について考えさせられた。また、ラルティエグと植田正治の並行性をとらえる展覧会も、そのアプローチ法の創意を高く評価したい。開拓には困難もつきまとうが、現代美術の分野ではすでに結実しつつある方向性なので、不可能ではあるまい。

##### 《指摘された課題・提言等》

- 国際的な視野が現代において必須なのは当然であるが、この視点をさらにアジアを中心とする非欧米世界の写真創作にまで及ぼしてほしい。
- 展示の際のテキスト、キャプション等のミスなどオープン前の見直しが出来ていないことは、とても残念である。

#### (3) 良質な映画の誘致と上映 【評点4】

##### 《評価の理由》

- 25 年度は簡単に DVD で観られないようなものを特集的に見せる方向が進んだようで、ずいぶん映像ホールの存在意義が感じられるようになった。
- 企画と運営に工夫がなされ、商業館とは異なる多様なラインナップで、写真美術館ら

しい興味深い映像作品を上映している。

《指摘された課題・提言等》

●特になし

### 3 教育・普及事業の評価 【評点4】

#### ＜写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館＞

#### (1) 対象者に応じて多様なプログラムの提供 【評点5】

##### 《評価の理由》

- スクールプログラムは小学校・中学校・高等学校・大学および各種学校の授業とリンクしたプログラムを組んでおり、文字通り対象者に応じた多様なプログラムとなっている。
- スクールプログラム、ワークショップ、講演会、ギャラリー・トークなど、教育普及活動に力を入れて、新たな観客層を掘り起こそうと努力していることは大いに評価できる。

##### 《指摘された課題・提言等》

- 展覧会の出品作家及び担当学芸員による解説トークは、きわめて重要なので、広報活動としてより盛り上げてほしい。その際、解説プログラムを例えば、金曜日夕刻か土曜日午後に固定・定例化し、写真美術館のトレードマーク化することも考えられる。

#### (2) 図書・情報の収集と公開の促進 【評点4】

##### 《評価の理由》

- 写真の美術館においては、写真の展示だけでなく、写真集の収蔵も大切な役割を果たす。4万冊近くの図書を収蔵しているのは心強い。
- 展覧会関連図書リストの会場入口出口カウンターでの配布は、わかりやすく、写真展を見た後、さらに関連図書を読みたくなるような動線の引きがねとなり、とても有効である。

##### 《指摘された課題・提言等》

- 写真専門美術館の図書室として収蔵冊数をさらに増やす努力が必要である。洋書の購入も増やし、一般のみならず研究者にも対応できるレベルの高い図書室を目指してほしい。
- プリントスタディールームの利用者が相変わらず少ないのは、そこまで専門的に調査しようという人が多くないという理由だけによるものだろうか。

#### 4 広報事業・情報発信の評価 【評点4】 〈写真・映像文化の拠点として貢献する美術館〉

##### (1) 効果的な広報・宣伝 【評点4】

###### 《評価の理由》

- 季刊広報誌「写真美術館ニュース eyes」で読み物として写真ファンの獲得を意識しているようであるし、写真ファンではない人々を新たに取り込むには、他に類を見ない広報別冊「nya-eyes」を発行して新しい来館者を開拓している。さらに単行本になることで、より一般の眼に触れる機会も増え、東京都写真美術館の存在を広く知らしめる働きがあるだろう。
- 他と比較して新聞広告を多用しているのが特徴的であり、他の美術館などにチラシを置いてもらうより、多くの人々の目に留まる新聞広告は有効かもしれない。

###### 《指摘された課題・提言等》

特になし

##### (2) インターネット等を用いた情報発信の推進 【評点4】

###### 《評価の理由》

- ホームページは日本語ページは良く考えられていて充実していると思う。ページビューが、昨年度比約 120%超となったのは素晴らしい。

###### 《指摘された課題・提言等》

- コレクション検索で収蔵作品を画像で見ることができれば、コレクションの存在を広く知らしめることになり、一般観客にとっても研究者にとっても大いに裨益するので、リニューアル中にこの部分を充実させることを期待する。また、英語版には最低限の情報しかなく、これを拡充することが今後の課題である。
- 動画、YouTube など活用したらどうか。例えば、キュレーターの生の声を聞かせるような工夫をしてもいいかもしれない。

5 来館者の視点、企業・団体の参加、ボランティア事業、地域連携の評価  
 <開かれた美術館> 【評点4】

(1) 良質なサービスの企画・提供 【評点4】

《評価の理由》

- 来館者の満足度が高く、特に問題は感じられない。
- 来館者に対してサービスを提供するという意識が徹底しており、展覧会やイベントのみならず、図書室、カフェ、ショップにいたるまで一貫しているのは好ましい。

《指摘された課題・提言等》

- 2階のスペースは、空間が大きく美しいのに、今の使い方は、たとえていえば、どこかの区役所の休憩コーナーのレベルである。むろん映像が流れているときにはそれなりに興味が湧くが、改修後は可能な範囲で工夫し、「いるだけで心躍る」場所にしていただきたい。

(2) 企業・団体等の参加促進 【評点5】

《評価の理由》

- 支援会員数と会費収入ともに、近年は最高水準にあり、当館の最大の特質をよく維持している。
- 普及事業でも、公益社団法人日本写真協会との共催、富士フィルムイメージングシステムズ（株）との共催事業を行っており、これも評価できる。

《指摘された課題・提言等》

特になし

(3) ボランティアの参画促進 【評点4】

《評価の理由》

- 新しいボランティアの研修、初心者の暗室作業など、学芸員、ボランティア間で学び合い、SP等に生かされているのは、とても評価できる。
- ボランティアを募り、研修会で育成することによって、スクールプログラムやワークショップが充実した成果を挙げている。

《指摘された課題・提言等》

- ボランティアの参画を展示解説中心から、より広い領域に拡大できるよう、検討に入ってほしい。

#### (4) 地域との連携強化 【評点4】

##### 《評価の理由》

- 「あ・ら・かるチャー 渋谷・恵比寿・原宿（文化施設連携事業）」に参加して、地域連携を推進しているのは評価できる。
- 「あ・ら・かるチャー」の英語版の施設紹介パンフを新規作成したことは、実績として評価する。

##### 《指摘された課題・提言等》

- 日仏会館など近隣の団体や企業と協力関係を結んで、新しい企画を起こしてほしい。
- 近年、東京周辺では、いわゆる「街歩き」慣習がひろがり、美術館以外の施設との連携の必要が唱えられている。「駅から歩くウォークラリー」のようなイベントなどの拡大への対応を考える必要がある。

#### 6 インフラの改善 【評点4】

##### ＜ミッション達成のための必要な基盤の整備＞

##### 《評価の理由》

- 平成 28 年にリニューアル・オープンするための改修工事を計画し、実行しようとしている。利便性が向上すれば、美術館への親しみ、入りやすさが増し、観客増にもつながるであろう。
- 改修にあたり、実際にその場所を使う人の意見を採用する場を設けたと伺ったが、たいへんいいことだと思う。

##### 《指摘された課題・提言等》

- 来館者の多くはJR側から来ることを考えれば、1 階入口およびその周辺をすっきり、魅力的にできれば印象が随分違うと思う。
- 改修工事を機会に、誰もが入ってみたいくなるような格調高い写真美術館になることを望む。



# 資 料



## 東京都写真美術館外部評価委員会設置要綱

### （設 置）

第1 東京都写真美術館（以下「美術館」という。）の事業実績を客観的に評価し、事業 効果を適正に測るとともに、改善事項の検討を進めるため、館長の私的諮問機関として東京都写真美術館外部評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置する。

### （所掌事項）

第2 評価委員会は、次の事項について審議し館長に助言を行う。

- （1）美術館が掲げる定性目標、定量目標に基づく美術館事業の外部評価報告書に関すること。
- （2）その他、館長が必要と認めた事項に関すること

### （構 成）

第3 評価委員会は、学識経験等を有する者の中から、館長が依頼する委員7人以内で構成する。

### （任 期）

第4 委員の任期は、3年とし、再任を妨げない。

### （座長及び副座長）

第5 評価委員会に、座長及び副座長を置く。

- 2 座長及び副座長は、委員の互選により定める。
- 3 座長は、委員会を主宰し、会務を総理する。
- 4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときには、その職務を代理する。

### （招 集）

第6 評価委員会は、館長が招集する。

- 2 館長は、必要に応じて、委員以外の関係者の出席を求めることができる。

### （庶 務）

第7 評価委員会の庶務は、東京都写真美術館管理課において処理する。

### （補 則）

第8 この要綱に定めるもののほか、評価委員会に必要な事項は、館長が定める。

### 附 則

この要綱は、平成16年4月1日から施行する。

## 東京都写真美術館外部評価委員会委員名簿

	氏 名	職 業 ・ 役 職	備 考
座 長	樺山 紘一	印刷博物館館長	博物館長
副座長	鈴木杜幾子	明治学院大学教授（文学部芸術学科）	美術館・博物館 経営研究者
	三浦 篤	東京大学総合文化研究所教授	
	清水 真砂	世田谷美術館学芸部長	美術館・博物館 関係有識者
	小川 敦生	多摩美術大学芸術学部教授 (元日本経済新聞社文化部記者)	マスコミ・文化関係者
	矢野 富子	写真美術館ボランティア (平成19年～)	ボランティア

(敬称略:順不同)